

愛知万博を支援する新瀬戸焼商品開発

- 愛知万博のための陶磁器製みやげ品の開発 -

2005 年に瀬戸・長久手で開催される愛知万博のための土産品として、瀬戸地域に温存されている産地技術を生かし、染付ペンダント等のアクセサリーおよび関連用品を 7 種、ミニテープカッター等の卓上用品を 5 種、どんぐりの水やり具等の園芸用品を 3 種、ストローホルダー等の食卓用品を 5 種、肩たたき等の健康用品を 2 種、計 22 種をデザイン、試作しました。

デザインするにあたり、土産品売場の現状を調査するため、名古屋城、名古屋テレビ塔、名古屋空港の 3 か所に出向いて聞き取り調査をしました。その結果は、次のとおりでした。

年間来訪者は、名古屋城が約 100 万人で、修学旅行者から年配者まで幅広い年齢層が訪れています。テレビ塔は約 20 万人で、男女とも幅広い年齢層が訪れています。空港は、国内線が約 650 万人、国際線が約 400 万人、計 1050 万人が訪れています。3 か所の総売り上げから、来訪者 1 人当たりで計算すると、約 300 円程度なので、10 人に 1 人が購入すると想定すると 1 人平均の購入金額は約 3000 円になります。売り上げの上位を占めるのは、携帯ストラップ、キーホルダー等サイズの小さいものです。

また、万博は国際博覧会であるところから、海外から多くの方々が来られますが、今回の調査では、外国人は土産を買う習慣がなく、あまり多くを期待できません。

今回開発の購買層は、陶磁器製の土産品に一番関心があり、買う可能性の高い、20 代後半以上の女性としました。

「新瀬戸焼商品」とは、産業経済のグローバル化による国内産業の空洞化を阻止するために、瀬戸地域に継承されている技術の商品に活かした焼き物（多品種適正量生産で高付加価値な商品）と設定し、経済性、生産性、コスト上の問題から避けていた、こだわりのあるデザインで取り組みました。また、愛知万博のテーマの一つである「自然の叡智」から、「自然」もテーマにしました。デザインアイテムは下の写真始め、女性を意識した既述の 22 種です。

試作品は、業界の流通品と共に、平成 15 年 3 月 19 日（水）から 22 日（土）まで、『瀬戸焼で楽しもう、応援しよう「愛・地球博」』の名称で、愛知県デザインセンター（名古屋市中区丸の内 3-1-5）にて展示会を開催し、来場者から個々の試作品に対して貴重な意見をいただきました。



肩たたき



ミニテープカッター



メモホルダー



携帯ストラップ



どんぐり水やり具



ストローホルダー



瀬戸窯業技術センター 榊原晴勝

研究テーマ：リサイクル素地を用いた製品のデザイン開発

指導分野：陶磁器デザイン